て広場を整備しました。広場は地区の方々が アダプト制度を活用し清掃活動に取り組んで います。このエリアには歴史の重みを感じさせ るような建造物が多く残っていますが、今後 は所有者、地域住民のご理解を得ながら景観 保全に向けての事業が課題となっています。

◇金谷地区のまちづくり 【金谷地区の現状】

金谷地区は中津藩の武士が住居を構える 地区であり、今も残る往時の地割りは全国 でも希少価値のある地割りであることが西 村東大教授により説明されています。しかし、 生活するうえでは充分な道路幅がなく、避難 用道路新設事業と合わせ景観に配慮した道 路整備をすることにしています。

【金谷地区の課題】

住民参加型の歴史的価値の保存・活用(金谷8地区まちづくり協議会)と生活環境整備 (道路新設・改良事業)

提案事業

【地域創造支援事業】

◇島田本町通り、蛭子町通りの都市景観形 成事業

駅北区画整理事業に伴って、新たな家、商店等が建設されます。「城下町中津」の玄関先に位置し、観光回廊を回遊する道の出発点として重要な役割を担うことから平成16年度に「街なみ環境整備事業補助金交付対象特定区域」に指定し、島田本町、蛭子町の2地区では町内に「まちづくり協定運営委員会」を発足しました。その中で、その通りのテーマを検討し、対象者の同意を得た上で、まちづくり協定書を自治会と締結、その後、市が承認し、現在着々と都市景観形成が進められています。建物の景観と合わせ歩車道(20m~21m)の2通りは電線地中化の共同溝事業を取り組み、より良好な景観に配慮した形成事業を進めています。

◇提案事業の目的

こうした取り組みをしながら、心のふれあいにより住民の意識が高まり、うるおいある住環境を創造して「建物の景観形成だけでなく、歩道や街路灯、ストリートファニチャーなどの配置等」へと検討を広げ、更にはソフト面でも花作り運動や町内の街並みをひな祭りなどイベント案内板としての役割や伝統的な祭りなどの掘り起こしをしながら町内あげての取り組みにより賑わいのある町となり、そのことが観光浮揚にもつながればと思います。

2) まちづくりの課題

◇城下町再生浮揚

今後の城下町の風情をもったまちづくりについて、城下町時代の町割りを残す中津城周辺の界限を中心に取り組んでいかなければなりません。生活者が住みたい、住み続けたいと思う町が良い町です。町には行政、民間双方から様々な投資が行われる。その投資や個々の努力の足し算により町全体を魅力あるものにするためには、努力の方向が揃っていることが必要で、その方向付けがビジョンで、ビジョンを共有するためには「参加」が不可欠です。

ー観光浮揚の問題ー

近年の観光のあり方としては、観光と地域づくりを一体的に進める「ツーリズム」の考え方が主流で、旧来の観光に付加価値をつけたものが観光客誘致の必須条件。幸い、中津市は美しい自然、新鮮な海山の食材、歴史ある町並みと文化の三拍子揃った県内でも有数の地域。この魅力にあふれた地域の素晴らしさを全国に向けて発信するため、新たな魅力を発掘するとともに、代々引き継いできた貴重な各種の観光資源を磨き上げるため地域とのネットワークを構築しなければなりません。
◆中津市景観研究会の取り組み

平成18年7月21日付けで中津市は景観行政団体(県下で8番目)となりました。中津市の持つ豊かな景観を地域住民と協議・有効活用しながら、人にも自然にもやさしいまちづくりを目指し、景観行政を進めるため、市民の協働参画のもと積極的に景観に関する調査・研究を進めて行っていきます。

3) 課題を解消するには!

中津市の財産を活かし、中心市街地を活性化するには、行政の力だけではできません。財産を活用するのは、そこに住む住民の方々(生活者)です。現在、少子高齢化に伴って、地域での活動・交流が減少してきているのは事実です。しかし、できる事から取り組み、それが積み重なり輪になっていく、これができれば息の長いまちづくりになると思います。ソフト事業の構築、そしてそれに必要なハードの整備、それを手助けするのが「まちづくり交付金事業」を活用する行政です。

また、豊かな観光資源を有する耶馬溪日田 英彦山国定公園、名勝耶馬溪は山国川本流 の清流と相まって、山紫水明の景勝地として 全国的にも名前が知られ、中津市の貴重な 財産です。この貴重な財産を未来永劫残して いくのも其処に住む住民の方々(生活者)と 行政がいかに協働して取り組むかが景観行政 団体としての課題です。 (文責:田原) 2007~2008年度

◎中津平成週報

国際ロータリー2720地区

中津平成ロータリークラブ

会長若松定生幹事榎本正則会報委員長田原和己

例会日/毎週木曜日 12:30

例会場/中津オリエンタルホテル **☎**24-8111 事務局/〒871-0055 中津市殿町1383の1 中津商工会館2F **☎**0979-22-9716 FAX 0979-22-9722

メール/office@n-heisei.org ホームページ/http://www.n-heisei.org/ 2007~2008年度 国際ロータリー・テーマ

ロータリーは分かちあいの心

ROTARY SHARES

国際ロータリー会長 ウィルフリッド・J・ウィルキンソン



第860回例会 平成19年11月8日(木)

◎本日の例会プログラム

クラブ協議会

クラブリーダーシッププラン検討委員会 小川陽一郎委員長

○次回例会プログラム

ロータリー財団学友会メンバーの卓話

担当:青木秀暢委員長

前回(859回例会)の記録 平成19年11月1日(木)

■ビジター

中津RC 若松舜兒君 中津中央RC 東納英一君 ■前々回出席報告の修正 前々回欠席者 5名

メイクアップ 3名 欠 席 者 2名

修正出席率 80.77%→ 92.31%

■出席報告

会員数26名免除者数26名对象者数26名本日出席者22名欠席者数4名

出席率 84.62%

●メイクアップ

松本(中津中央)、出納、江渕(中津)

●欠席者

小野(嘉)、白石

ロータリーソング

君が代、奉仕の理想

会長の時間

会長 若松 定生

昨日、夕方より姉妹交流委員会、会長幹事にて11月17日の福岡交流会会場の下見に行ってきました。中津帰着は深夜でした。ご苦労様でした。

さて、10月19日(金) に熊谷会員増強委 員長と共に玉名市で開催されました地区会員 増強セミナーに参加してきました。午後1時 開会で4時終了の短い時間でしたが、内容の 濃いキビキビとした、久し振りに良かったと 思ったセミナーでした。基調講演の講師は RI2710地区の西村PGと以前私共の例会で 卓話をいただいた永冨PGでした。内容を少 しご紹介しますと、まず現状は世界168ケ国 にロータリアンは122万人で、ここ10年は頭 打ちです。但し日本は13万人から9.7万人へ 激減し、10万人の台は何としても守らなけれ ばならないとの認識でした。さらにRI2710 地区の1990年代入会者、つまり会員の中堅 にアンケートを取った所、①ロータリーは衰 退に向う 50% ②退会を希望している 17% ③ロータリーに誇りを感じない 27% という 愕然とさせられる結果が出てきたそうです。 このような背景を踏まえて様々な対応策が話 されました。やはり会員増強の勧誘は、た だ勧めるだけではなく、自らのクラブのロー タリーの魅力をきちんと相手に伝え、また その為には自分自身のロータリーに対する考 えを確立しておく事が大事という事でしょう。 最後に、現在、社会の中でロータリーの評 価が今ひとつ高いものがありません。以前に 比べ尊敬されるもの、輝くものが無くなった 様な現状ではロータリアン一人ひとりが社会 に対してロータリーの代表として正しく振舞 い、かつ悪口を言われない様にしなければ ならないとの事です。具体的な例を挙げます と、① 退会者からのロータリーの悪口を抑え る(一番怖い、辞めさせない)②ゲスト卓話 者のロータリアンの悪評価を抑える(卓話中 はゲストに背を向けない、私語居眠りをしな いで聴く) ③職場例会も要注意。以上、ロー タリークラブに見物席は無い、全員が出演 者であり、演出家である事を認識してロータ リーライフを楽しみましょう。

幹事報告

幹事 榎本 正則

- ●例会変更 なし
- ●週報受理 仙台平成RC
- ●会報受理 ロータリーワールド、ロータリアン届く
- ●幹事報告
- ・中津RCより11月例会プログラム届く。
- ・2007年規定審議会標準クラブ定款改正の件。
- ・「人権を守る市民の集い」開催のご案内
- ・九州プラネットより卓話講師利用のお願いについて。
- ガバナー月信届く。
- ロータリーの友届く。
- ●理事会報告 例会終了後、理事役員会

委員会報告

·IT広報委員会

辛嶋委員長

ロータリーの友に向笠 会員の俳句が掲載され ているので紹介します。



・姉妹交流委員会 矢頭委員長 昨日、視察を表れて下

昨日、視察を兼ねてト 見に行ってきました。再 度出欠表を回覧しますの で確認して下さい。



ニコニコボックス

担当:出席委員会

本日60才を迎えましたのでニコニコします。

○東納ガバナー補佐

先日の公式訪問はありがとうございました。

○向笠会員

今日、ロータリーの友 に私の俳句がトップに 載っていてびっくりしま した。



○青木会員

本間課長、今日は卓話 をしていただけるという 事でありがとうございま す。



○矢頭会員

姉妹交流の下見に行ったおつりをニコニコします。

○加来会員

津市で開かれたインプラント学会へ行ってきました。



○梶原会員

本間課長ありがとうご ざいます。よろしくお願 いします。



○岩渕会員

次男が吹奏楽の九州 大会で金賞を貰い、長男 は長野で行われる全国 大会へ出場が決まりまし た。



○若松舜兒君 (中津RC)

お世話になり、ありがとうございます。

グスト卓話

「良好な景観に配慮した都市景観の形成と 「活性化・観光浮揚」に向けて|

中津市役所まちづくり 推進室 本間清隆課長

 まちづくり推進室の 体制と紹介

○はじめに

城下町の風情を持っ たまちづくりを基本と



し、中津市固有の歴史や文化の保全につ とめ、伝統と新しい文化の調和したまちづ くりを市民と一体となり取り組み、中心市 街地活性化の諸施策を実行するための総 合調整窓口として平成16年4月1日、推進 室が設置されました。現在4名の職員で取り組んでいます。

○主な事務の内容

- 1, 中心市街地活性化に関すること。
- 2、景観及び町並みに関すること。
- 3, 市民協働による行政の総合的企画及び推進に関すること。
- 4, まちづくり推進組織の育成に関すること。
- 5、まちづくり活動の支援に関すること。

2, まちづくり交付金を活用した都市景観形成 平成11年8月に「中心市街地活性化基本計画」を策定し、平成12年度より「まちづくり総合支援事業」、平成17年度からは「まちづくり交付金」を活用し、平成21年度まで都市再生整備計画に基づき事業を進めています。

3, 再活性化計画と都市景観形成

目標 ①歴史的な情緒が感じられる都市 回廊の実現 ②多様な都市機能の集積 ③都市居住の推進

☆まちづくりの方向性

①城下町中津 ②誇りある我が街 ③人と人との交流に喜びがある

☆まちづくりの5つの方針

①生活環境の保全と改善 ②住民交流の 促進 ③新規居住者の受け入れ ④おも てなしの演出 ⑤城下町の景観の尊重

まちづくりの基本姿勢

ハード事業先行により、点での整備は進んでいるが、今後は「良好な都市景観に配慮した点(ハード)を線に、そして面」にする為のソフト事業の推進を図ることを目的に以下を基本姿勢にする。

①まちづくりの主役は「生活者」と心得る ②ビジョンは共有してこそビジョン ③個店 の魅力向上こそが最大のそして最終の課題

1) 平成21年度までの事業 (ハード事業・ソフト事業)

【再活性化計画】中心市街地再活性化計画策定 平成11年8月に策定した計画が5年を経過 した為、当時の計画を基本としながら即効 性のある事業の絞込みとソフト事業の強固 な推進に向けて住民参加による再活性化計 画を平成18年3月策定しました。

【旧城下町エリアの景観保全】

城下町14町の中で金谷及び諸町等の旧城下町風情が残る地域のまちづくりの整備方針を平成17年度、NPO中津まちなみ会に委託し景観保全についてのガイドラインを策定しました。金谷上ノ丁文化交流広場の土塀の保存・復元調査も実施し、金谷の1つの観光スポットとし